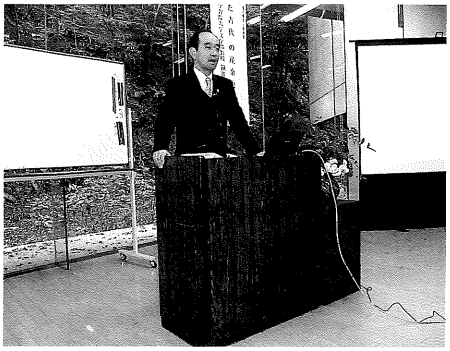
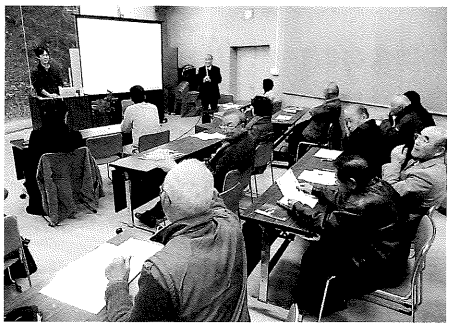
甲斐の金山から　平成24年1月30日　第59号

博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡／湯之奥・中山金山

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報





2012年も頑張ります
宜しくお願いいたします

平成23年度公開講座が昨年の10月から、各月１回づつ、全５回の日程で開催され、多くの聴講者の皆さんがおいでくださっています。各分野のエキスパートの先生方が、ご専門のお話しをくださる講演会も２月が、今年度ラスト講義となります。

少しさかのぼって、12月11日㈰、キラキラ！シルバーアクセサリー作り教室が開催されました。地元・峡南高校の学生たちが、教室の指導者として、子供達や大人の方まで幅広く指導し、参加者の皆さんが、素敵なシルバーアクセサリーを作成しました。銀を溶かしたり、圧延したり、シンプルだけど細かく難しい作業が意外にありますが、誰もが楽しそうに作品作りに没頭していました。次回は2月12日㈰午前と午後の２回。ただいま参加者募集中です（詳細は７ページ）。

見えてきた山金以前の産金形態

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館長 館　長　谷　口　一　夫

湯之奥金山博物館は、15世紀末～17世紀末までの200年に及ぶ、初源期山金山である国指定史跡「甲斐金山遺跡」（黒川金山・中山金山）を全国へ発信するガイダンス館として、平成９年開館以来、これまでに27万５千人余の有料入館者を全国から迎えている。

また博物館公開講座は、甲斐金山はもとより、甲斐金山へつながる発展過程を通史的に把握する上でも極めて重要だという認識で、常に新しい研究成果を受講者と共有する目的で、町内はじめ県内外から「歴史ファン」や「歴女」の皆様方と共に学習してきた。テーマは山金山前夜の黄金の国ジパングを支えてきた８～15世紀の産金地解明であった。

さて近年は、佐渡における西三川砂金山・鶴子銀山・新穂銀山・相川金銀山や近代化遺産が、新潟県・佐渡市による世界遺産登録へ向けた全容解明の調査が進み、特に寛政３（1462）に開かれたという佐渡・西三川砂金山は７㌔に及ぶ笹川集落全体に、砂金採取の為の水路遺構を設けた広大な面積に広がる砂金現場の全容が解明されている。

堤をつくり、水路を張り巡らし、下流域の金を包含する地層を洗うように流し、砂金を溜め、ゆり板で砂金を採る手法であるが、これは８世紀中葉から始まる長い産金の歴史をもつ、陸奥金山にみられる砂金（土金）採掘現場とも酷似する。 共に山金への画期をもつ、鉱石を粉成す道具は供出していない。また佐渡には「今昔物語集」巻26に“「佐渡の国にこそ金の花咲きたる所は有しか」と人に云いける・・・”と記述があり、砂金山の初源は遡る可能性もある。

陸奥金山（岩手県南・宮城県北）は、８世紀以降における日本の先進的な産金地であるが、この地域をフィールドに活動する産金遺跡研究会の長年に亘る、足で稼いだ研究成果が「黄金の在処と行方」と題して纏められている。３・11の午前、危機一髪の状態の中、印刷所から納品されたと聞く。

その著書のグラビアには、矢作町雪沢～猪川町大野にまたがる砂金採取用の長大な水路がみられるが、同会では「黄金水路跡」と呼んでいる。この水路の時代は検証できないが、陸奥では聖武天皇への金献上を契機に産金が活発となり、それを傍証するように律令時代の陸奥の各地では、金による納税が随所に記録に残っている。この裏付けは産金地の存在を裏付ける。

中沢新一氏（週刊現代54巻３号）は、５～７世紀には朝鮮半島の南端に「加耶（かや）」（任那（にんな））という国があり、西日本とはひと繋がりの関係にあった。その中心は「ハタ（秦）」氏で、数万人の規模。彼らは百済や新羅との文化的影響を強く受け、採鉱や冶金、養蚕や機織、寺社建築や呪術品（玉）づくりにも、農民でありながら高い技術を持っていた。やがて日本列島へ移り住み各地へ散っていったという。

日本の初期産金時代の出発点は、彼らの行動にカギがあったかも知れない。百済王敬福（きょうふく）が、聖武天皇に献上した金900両の延べ板金も、彼らの仲間が集めた砂金を板金にした可能性があり、敬福と共に位を戴いた冶金人戸浄山（やきんじんとじょうざん）の存在は意味がある。

活　動　報　告

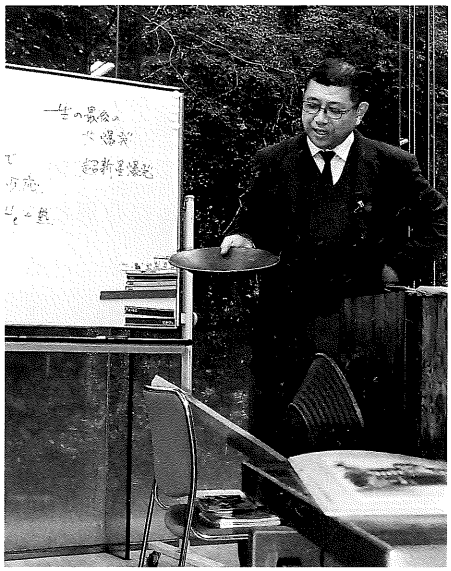
平成23年度公開講座「黄金の国ジパングの謎解き」　10月～２月

昨年10月29日㈯の宮澤公雄先生（帝京大学山梨文化財研究所考古第一研究室長）の講義を皮切りに平成23年度公開講座が開講されました。今年度テーマは『黄金の国ジパングの謎解き“８～16世紀の産金地を追って～”』と題し、各講師の先生方にお話しいただいております。

11月26日の第72回講義では「文献から見た古代の産金地」の演題で、学習院大学文学部の鐘江宏之教授に、第73回の12月17日は、遠く宮城県より「岩手県南・宮城県北の産金遺跡」の演題で、南三陸ふるさと研究会事務局の鈴木卓也氏に講義をいただきました。多くの方に聴講頂き、聴講者からは『内容がとても高度ながら素人の私達に分かりやすく説明をしていただけて、とても有意義な時間でした』と言っていただけました。

新年最初の講義、１月21日には、灘中学高等学校の野村先生に『砂金採取の道具の変遷』という演題で講座をしていただきました。自身で作成された砂金採集道具などを紹介しながら、砂金掘りの道具や採取方法を分かりやすくお話ししてくださいました。

各講義共に毎回30名ほどの聴講者の方が県内外から足を運んでくださり、先生方のお話に熱心に耳を傾けています。講義の後の質疑応答も最近は特に活発です。



パンニング皿やその他の道具を解説する野村敏郎先生。東西中高交流砂金掘り大会は灘校生徒達を引率する。

佐渡市・新潟市より金山遺跡現場査察　9月14日㈬～16日㈮

去る、７月２日は佐渡市、３日には新潟市において、谷口館長が講演をしたご縁で、９月、新潟県教育庁文化行政課世界遺産登録推進室と佐渡市世界遺産推進課から、４名の研究者の皆さんが、甲斐金山遺跡を隣地研修すべく来館されました。

様々な金山遺跡を比較事例として参考にされたいということで、おいでくださったのですが、甲斐金山はいずれの遺跡も、山登りしないと行けない場所ばかり。

初日、新潟から６時間程をかけて到着された皆さんは、休憩もほとんどとらずにそのまま湯之奥・茅小屋金山へ。茅小屋金山の在り様、遺跡の現状を熱心に確認考察されていました。

翌日は、静岡県井川金山のある山中を１日歩きまわり、そして最終日には長野・金鶏金山の見学をされました。いずれも急峻な山の中に存在する金山遺跡の様相に大変驚き、佐渡金山遺跡群にどのような姿・形で、甲斐金山の産金技術などが伝わっていったかを考える上でも、大変参考になったとおっしゃってくださいました。

大変ハードな日程の中でおいでくださったわけですが、まったくその表情から疲れが読み取れないほどのタフさです。これからさらに、研究が進んで行くであろう佐渡金山遺跡ですが、こうした最新の情報交換させていただきながら、今後も交流を続けさせていただきたいと思います。

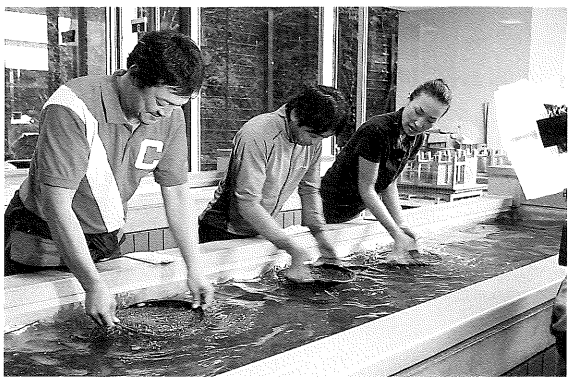
27万人目記念入館者は、愛知県の佐々木さんご家族！　9月19日(月)

順調に入館者数を延ばしてきた昨年、博物館では去る９月に有料入館者27万人目のお客様をお迎えすることが出来ました。５月に26万人目をお迎えしてから、およそ４か月で１万人のお客様においで頂きました。さて、27万人目のお客様は、愛知県岡崎市からおいでくださった佐々木さんご家族（博美(ひろみ)さん・ゆう子さん・萌絵(もえ)ちゃん）。小学校一年生の萌絵ちゃんは、父さんとお母さんと仲良くやってきて、そこで入館27万人目であることを告げられたら、さらに嬉しそうに満面の笑顔で、谷口館長から花束を受け取っていました。観覧、体験をしたあと、感想を聞いてみると、もともと来館されたきっかけはスタンプラリーだったそうです。体験をしてスタンプを押していこうと思ったら思わぬ幸運に当たったというわけです。体験をした後、萌絵ちゃんは「とても楽しかった。」と言って、黄色い綺麗な花束を抱えてお父さんとお母さんで嬉しそうに帰っていきました。28万人目のお客様をお迎えする日も近いですが、スタッフ一同、引き続き精進して参ります。

片山右京さん＆デビット伊東さんロケ来館　9月28日(水)

昨年、10月４日から新番組としてオンエアされた「自転車つれづれ旅日和（BS－TBS)」。パーソナリティが、各界の著名人をゲストに迎え、日帰りまたは１泊の自転車ツーリングをしながら、サイクリングの楽しさを紹介するという番組です。シリーズ全13回で、そのうちの第３回目の放送（10月18日(火)では身延から勝沼までの旅が取り上げられ、身延町内がいろいろと紹介されました。

この番組のメインパーソナリティは、元Ｆ１ドライバーにして登山家、自転車競技選手でもある片山右京さん。そして今回のゲストはデビット伊東さん。身延山の次に訪れたのが当館でした。



さて、ロケ撮影に来たこの日は、水曜日で休館日。ギャラリーはいませんでしたが、落ち着いて撮影は進みました。

２階展示室をご覧になったあと、砂金採り体験室で砂金採り。こういう作業を意外と嫌いではなさそうなお二人。基本的に、好き勝手おしゃべりしながら撮影が進むスタイルで、聞いてる周囲は非常に楽しいのです。片山さんは、Ｆ１の世界でそれこそ生死をかけて挑戦してきた方ですから、誰もがどんな人だろうと感じるところでしょうが、とても気さくで無邪気な感じの方で、デビットさんとの軽妙な掛け合いを聞いていると、まるで芸人さんのようでした。またデビットさんもとっても感じの良い方で、気持ちのいいロケ時間でした。

全国各地の金山史研究が盛り上がる！　8月6日(土) 午前

11月27日、博物館で公開講座を開催していた同時間、毛無山の静岡県側の麓金山でも、「富士金山を活用した地域作り」という、東京農大主催のオープンカレッジ講座の一コマが開催され、小松学芸員が講師・案内役を務めました。関東近県、地元の方々など、およそ15人の方が2日間の講義を受講し、麓金山の歴史が甲斐金山全体の歴史をさらに明らかにするためにも非常に重要であることを座学で理解していただき、翌日は毛無山登山。麓から登り、途中、麓金山遺跡を見学しながら、静岡県と山梨県の県境である地蔵峠へ向かい、そこから山梨県側に降りて中山金山遺跡を見学するという、結構ハードなコース設定でしたが、朝から夕方まで一度として富士山が雲に隠れることがなかったほど天候にも恵まれ、けが人もなく楽しく知識を深めることが出来た有意義な見学会となりました。

岐阜県の松谷鉱山跡を踏査するも、この日山中での新たな発見はなかった。

また、10月15～16日、岐阜県高山市清見地区の金山遺跡（主に松谷鉱山）を活用した地域おこしをしたいという意向のもと、高山市おっぱら自然体験センター主催の研修会が開催されました。その中で地域の方々に、金山や金の歴史など、歴史的な認識を深めて欲しいということから、金山研究の先進地事例としての紹介や、どのような調査方法が有効かなどを中心に、小松学芸員が講義、午後からは砂金掘りの実演として、博物館応援団でもある砂金掘り研究会の広瀬義朗氏、犬伏弘樹氏が実演講師を勤めました。

かわって地元では、11月19日、身延町商工会主催で、富士山本栖湖エコツーリズム推進事業の一環として、本栖湖畔にある川尻金山遺跡を自然体験ツアーに活かし、商品化できないかということから、小松学芸員が川尻金山の現場を案内し、関係者のみではありましたが、川尻金山現場の隣地研修を行いました。

いずれの主催関係者も「研修を通して地元の歴史や地域の金山に対する見方が大きく変わったと思うので、まず第一歩として、活動を続けていきたい」という、"地元のものを活用する"という意識が高く、こうした活動や研究の輪が各地で大きく発展していってほしいと切に願います。

未曾有の大型台風15号が下部温泉郷を直撃！　9月21日(水)

9月21日、身延町は強い台風15号の直撃を受けました。その記録的な豪雨は、富士川をはじめ全ての河川や沢を増水させ、山に降った大量の雨水は各地に土砂崩落を引き起こし、金山遺跡にも多大な被害をもたらしました。（※復旧も進み、現在ご来町には支障ありませんので、ご安心ください）

下部川の濁流が神泉橋を越えた

濁流は10m以上の大木をも押し流した

下部川の濁流が博物館にも!!

警戒に当たっていた消防団の目の前で道路が大きく崩れた

山からの土砂流が博物館にも

土砂の撤去に1週間費やした

遺跡の半分近くが流失した茅小屋金山遺跡

大きく崩れた毛無山登山道入り口

博物館常設展示リニューアル！間もなく公開

ジオラマ展示室映像、資料展示室、クイズコーナーが刷新！

湯之奥・中山金山遺跡は、湯之奥金山遺跡総合学術調査により、鉱石から金を採り出す作業が、極めて初期段階の戦国時代に開始された形跡を持つことが明らかとなり、その初源的山金山遺跡の全容が良好な形で残されていることから、国史跡に指定されています。そして当館では、戦国時代の鉱山作業を紹介すべく中山金山ガイダンス館として、広く紹介しています。

そんな中、平成21年「緊急雇用創出事業」による地域活性化事業の一環として、遺跡の正確な位置や全体像の把握を目的とした「茅小屋金山遺跡測量調査」、翌22年には「内山金山遺跡測量調査」が実施され、両金山で確認できた採鉱域や坑道、そして鉱山臼に代表されるおびただしい数の鉱山道具が発見され、甲斐金山解明の大きな足掛かりを作りました。この成果を常設展示に反映させるべく、今年度事業として、調査記録映像、およびジオラマ展示映像刷新と、常設展示パネルの追加、クイズコーナーの刷新準備を進めてきております。

ジオラマの映像も調査記録映像もともに、開館依頼13年間流してきたものではありますが、決して古さを感じさせるものではなく、お客様に分かりやすい戦国金山の姿や作業の様子を伝えてきました。しかし、ジオラマ映像に関しては今回思い切って、山形県の庄内映画村にてオープンロケでの撮影。「金山衆の一日」の撮影を敢行いたしました。セット撮影とは大きく異なるリアル感があります。

調査記録映像も同様で、新たに毛無山の空撮映像なども追加し、より深みと説得力のある映像を追求しています。

また、タッチパネルのクイズコーナーも新規作成で、“おもしろ言葉”や、“もっと金を知りたい！”、“金クイズ”など内容も充実。

また、中山金山に加えて、内山・茅小屋金山の調査報告の内容を盛り込み、さらに湯之奥金山を分かりやすく紹介出来るよう、常設展示室の展示パネルも新規追加作成中です。

いずれも編集作業に入り、いよいよ佳境。どのような映像になるのか非常に楽しみなところですが、公開までもう少し。いずれも製作から全て携わっていただいている皆さんの努力の結晶です。新年度４月より一般公開できますので、楽しみにしていてください。

館からお知らせ①

第２回 キラキラ！シルバーアクセサリー作り教室参加者募集！

昨年の12月11日(日)、キラキラ！シルバーアクセサリー作り教室が開催されました。この教室では、峡南高校生徒が指導スタッフとなります。普段教わる側の学生が、教える側にたつという経験をさせたいという学校側の意向と、地元の学校と湯之奥金山博物館との連携事業を開催したいという当館側の意向が重なり、継続的に開催して諸先生方のご協力も頂く中で３年目を迎えた事業です。

参加者の皆さんからも、「学生さんたちが、とても親切に教えてくれたので楽しかったし、自分だけのオリジナルアクセサリーが出来て嬉しかった」、「親切に教えていただいて難しい作業もうまくできて楽しかった」という感想をたくさんいただきました。クリスマスも近い時期で大切な人へのプレゼント、または自分が身につけるアクセサリーとして皆さん一生懸命作っていました。

自分が思い描いていたアクセサリーとは、少し違ったという方もいましたが、手作りの良さがあり、素敵なアクセサリーが完成しました。

全ての教室終了後、学生の皆さんの反省会がありましたが、今回も上手に出来たのですが、２月はもっと上手に指導したいという意欲が見られ、これもまた大変好感が持てました。

そんなアクセサリー作り教室、次回は、バレンタインデー・ホワイトデー前の、下記日程での開催となります。今回参加できなかった方や今回参加して楽しかったからもう１度参加したいという方など、多くの方のご参加をお待ちしています。

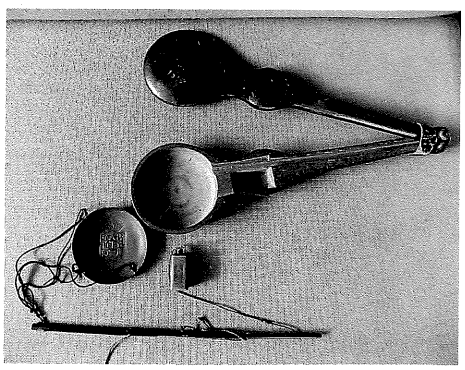
バレンタイン直前
シルバーアクセサリー作り
体験教室

日　時： ２月12日（日）
午前の部　10時～12時
午後の部　14時～16時
場　所： 湯之奥金山博物館多目的ホール
定　員： 各回10人(要：事前予約)
対　象： 小学生～一般
参加費： 1,000円（地金材料費として）

小川　博様より「厘秤」２点をご寄贈いただきました

このたび、小川　博様（長野県在住）より、寛文年間製作・文政年間製作の厘秤２点をご寄贈いただきました。日本計量史学会にも所属され、秤の見識を広くお持ちの小川様は、博物館の展示の秤を見て、時代的な資料もあると良いのではと感じ、寄贈をお申し出くださったものです。

小川様いわく「地味な歴史資料で、なかなか世間から注目されづらく、歴史に埋もれてしまうので、少しでも多くの方に見ていただければ」ということです。２点のうち１点は寛文年間のもので守随家第４代目正得作。色艶なども見事なものです。貨幣を語る上ではその存在は欠かせない秤の歴史を、公開準備ができ次第、皆様にご覧頂きたいと思います。小川様のご厚意に深く御礼申し上げます。



館からお知らせ②

親子映画観賞会

期　日　平成24年３月24日㈯　午後１時～３時迄（観賞無料・要申込）
上映作品　決定し次第、博物館ホームページでお知らせ致します。
場　所　湯之奥金山博物館　２階　映像シアター（定員85人）

博物館日誌（平成23年９月～平成24年１月）

９月
9日(金) 石和西小学校４年遠足、甲府ＣＡＴＶ撮影、名古屋観光キャンペーン１日目
10日(土) ＹＢＳ「子育て日記」撮影、名古屋観光キャンペーン２日目
12日(水) 休館日　古文書教室、『博物館だより57号』刊行
14日(水) 佐渡金山世界遺産登録関係者　茅小屋金山遺跡視察（～16日迄）
15日(木) 佐渡金山関係者　井川金山視察　ＵＴＹジオラマ展示映像打合せ
16日(金) 金山視察　甲府ＣＡＴＶ『ＨＯＴほっと情報ＯＡ』
17日(土) ＮＨＫ取材撮影１日目
18日(日) ＮＨＫ取材撮影２日目
19日(月) 有料入館者27万人目達成、敬老の日映画会『男はつらいよ』
21日(水) 台風15号接近・直撃
22日(木) 台風15号被害処理１日目、体験室・売店のみ開館
23日(金) 台風15号被害処理２日目、体験室・売店のみ開館
25日(日) 山梨ＢＳ－ＴＢＳ撮影下見、台風15号被害処理２日目、体験室・売店のみ開館
28日(水) 山梨日日新聞取材
1日(土) 休館日、ＢＳ－ＴＢＳ撮影『自転車つれづれ旅日和』片山右京氏、デビット伊東氏来館
5日(水) 湯田小５年遠足
6日(木) 里垣小４年遠足
7日(金) 身延山大学インターンシップ研修（～11日まで）、ＵＴＹ打ち合わせ
8日(日) 休館日　ＹＢＳ記録映像打合せ
12日(木) 身延山大学インターンシップ研修
13日(金) 休館日　ＹＢＳ記録映像打合せ
14日(土) 泉小学校３年遠足、新潟県立博物館職員視察研修
15日(日) 岐阜県高山市おっぱら自然体験センター主催研修会講義（～16日）
17日(月) 古文書教室
18日(火) ＵＴＹ映像撮影打ち合わせ
19日(水) 休館日
20日(木) ＹＢＳ映像打ち合わせ
22日(土) 中央市生涯学習課　親子映画観賞会「ドラえもん～のび太の日本誕生」、山形庄内映画村ジオラマ映像撮影ロケ
24日(水) 国母小４年生遠足
26日(水) 休館日
27日(木) 『ザやまなし』取材撮影、
29日(土) 第71回公開講座　宮澤公男氏、ＮＨＫ取材撮影

11月
2日(金) 休館日
4日(水) 文教大学附属中学校校外学習
5日(木) 道の駅しもべ　物産まつり出張砂金採り体験
6日(金) テレビ朝日「スーパーＪチャンネル」撮影
9日(水) 休館日
11日(金) シルバーアクセサリー体験教室打合せ
13日(日) ＵＴＹジオラマ映像撮影
14日(月) 身延山大学インターンシップ研修（～17日まで）
15日(火) 川尻金山現場案内
16日(水) 休館日
17日(木) シルバーアクセサリー体験教室打合せ
20日(日) 県民の日
22日(火) 久那土中学校　町内巡り
23日(水) 勤労感謝の日　祝日開館、イルミネーション取り付け
24日(木) 祝日振替休館日、テレビ朝日「スーパーＪチャンネル」放送
26日(水) 第72回公開講座　鐘江宏之氏、ふもとっぱら講義（～27日現場説明）
30日(木) 休館日

12月
1日(木) 身延町平成24年婚活プロジェクト下見・打合せ
2日(金) ＵＴＹジオラマ映像撮影
6日(火) 茅小屋金山遺跡現場確認
7日(水) 休館日
8日(木) ＦＭ富士コメント生中継
11日(日) 博物館売店盗難事件　警察現場検証時間臨時休館、峡南高校共催事業シルバーアクセサリー作り
12日(月) 体験教室
14日(水) 古文書教室
13日(木) 休館日　取材
15日(金) 休館日　新聞取材
16日(土) 休館日　公開講座　鈴木卓也氏
17日(日) 第73回公開講座
20日(水) 魅力作り協議会研修
21日(木) 休館日
25日(水) 親子映画観賞会「東京ゴッドファーザーズ」
26日(木) ＵＴＹ映像打合せ
27日(金) 沖縄県八重瀬町交流事業　小・中・高校生来館、産経新聞取材、門松作り、博物館仕事納め
2日(月) 博物館仕事始め

1月
4日(水) 休館日
5日(木) 小正月行事・お山飾り
11日(水) 休館日
12日(木) 古文書教室
13日(金) 国内旅行雑誌『じゃらん３月号』取材撮影
16日(月) どんど焼き
18日(水) 古文書教室、静岡朝日テレビ『とびっきり静岡』取材撮影、ＹＢＳ映像打合せ
20日(木) 休館日　教室、電気点検・設備点検
21日(金) 身延小学校３年生町内巡り、静岡朝日テレビ『とびっきり静岡』放送
23日(月) 第74回公開講座　野村敏郎氏
24日(火) ＹＢＳ映像打合せ
25日(水) 魅力作り協議会研修

編集後記

昨年は東日本大震災から始まり、台風12号・15号と多くの天災がありました。テレビでは、ある専門家が『異常気象のない年は無いのだ。』と言っていました。でも、できることなら一年の最後は、コタツでみかんを食べながら『今年一年何も無かったなぁ。平和だったね。』とか言いながら締め括りたいものです。なのに、言っているそばから、富士五湖周辺を震源地に地震が多発。

「東海、南海地震や、富士山の噴火とは直接の関連性はない」という公式発表ですが、不安は拭いきれません。ただ、何事も備えあれば憂いなし、ということで、心構えや準備はしておきたいもの。

さて、2012年の辰年。竜が天高く昇るように、博物館も更なるレベルアップを目指し、日々精進していきます。今年一年よろしくお願いいたします。

博物館だより　第59号　平成24年１月30日
〒409-2947　山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先　甲斐黄金村・湯之奥金山博物館　電話 0556-36-0015　FAX 0556-36-0003
博物館HPアドレス http://www.town.minobu.lg.jp/local_minobu/kinzan/index.html　博物館Eメールアドレス yunoking@town.minobu.lg.jp